

	公表	事業所における自己評価総括表
--	----	----------------

○事業所名	児童発達支援センターエポック幼稚園(放課後等デイサービス)			
○保護者評価実施期間	2026年1月6日 ～ 2026年2月6日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	109名	(回答者数)	33名
○従業者評価実施期間	2026年1月6日 ～ 2026年2月6日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)	4名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月13日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	併設されている幼稚園より、継続して利用を希望される方が多いため、開始時には個々の認知、学習スタイルの評価が出来る。その評価をもとに個別・集団の療育を提供している。	送迎サービスを提供していないため、一部移動支援を利用している利用者を除いて皆保護者が建物内に待機している。療育終了時には保護者に今日のねらいと子どもの様子を話し、家庭での様子や今後家庭で取り組んでほしい事、事業所で扱っていくことなどの懇談を毎回実施している。希望に応じて、療育を参観することも可能。また、担当制になっており継続した療育を提供できる。	様々な科学的な根拠に基づく手法を用いて療育を展開する。そのために、各々の技術と知識が向上するように研鑽する。招聘研修や内部研修 派遣研修 などで全体のレベルアップを目指す
2	TEACCHプログラムに倣い、自立をめざして個々に構造化を行い理解を支援している。	保護者に療育終了後に毎回懇談時間をとることで、療育の振り返りが出来ている。支援者の目的と方向性を明確にし、支援は上手くいかない時には上司に報告相談するシステムができています。個別支援計画作成時には、各担当から本児の様子を聞き取り、目的と支援方法、評価について整合性が見られるかという点で話し合いを持っている。	上記同様。
3	社会的で自発的なコミュニケーションを保証するために、一部の児にはPECSを実施している。PECSを用いない時にも、視覚的なツールを用いながら支援を行っている。	PECSのBOOKを自分の言葉として持ちあることを常態化するために、身辺整理のチェック事項としてBOOKを鞆から出し入れすることを提示している。また、各エリアにはBOOKを収納する場所を設置し、コミュニケーションの機会を保証するようにしている。また、絵カードを作成できない保護者にはカードの有料で提供している。	PECSの使用場面がおやつや、特定の課題場面に偏らないようにする必要がある。無発語でPECSの使用を進めている場合でも、事業所のみで使用していることもあり生活場面で定着し使用することは難しい。学校や他事業所でも使用できるように働きかける。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎を行っていないため、保護者の都合により欠席になり安定した利用の実績が予測できないこと。	本児が体調不良でない時も家族の都合、兄弟が病気である、兄弟の学校行事に参加しないといけないなどの理由で来所が制限される。欠席の主な理由になっている。	今後も利用実績を予測することが難しい問題は継続する。
2			
3			

公表事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援センターエボック (放課後等デイサービス)	公表日 2026 年 2 月 13 日			
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		利用時間を調整している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		個別・集団など特性に合わせた療育を提供できている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		肢体不自由の利用者のためにコーンを立てて駐車場を確保している。	車いす利用者にはやや狭いため、車いすの操作が未熟な場合に自発的な移動に介助が必要である。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		清掃用チェックボードの設置をしている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		個別・集団の担当者が決まっている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		出来る限り保護者の意向等を把握し業務改善できるよう努力している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		こどもの支援にかかわる職員が指導計画の作成に大きく関与している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		TEACCHの特性シートを参考にABA(応用行動分析学)に沿って分析している。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		療育開始前にミーティング時間を設けている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			支援時間後に十分な時間が確保できないことがある。特に最終6時終了の支援では勤務時間内に事務作業や片付け等を行う必要があるため時間の確保が必要である。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		毎日記録している。それをもとに次回の支援内容を考え提案することになっている。	支援内容を企画するリーダーの負担が大きい事。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	○			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		設定療育ではあるが、その中で自己決定等を重視している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		特別な事情が無い限り、直接支援の担当者が出席するようにしている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		学校参加の担当者会議には出来るだけ参加している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。		○	保護者送迎のため、保護者より情報を得ている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		保護者からの情報、サポートファイルによって行う。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		招へい研修を行っている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		保護者送迎のため、支援終了時には必ず支援内容と利用児の様子について話をする時間を設けている。	
保護者へ	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		必ず支援の様子を話す時間を設けている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
の 説 明 等	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。		○	個人情報の扱いもあるため、SNSなどには載せていない。施設内で避難訓練の様子などは掲示している。各クラスで必要に応じて、支援時の様子を写真に撮り保護者説明の時に使用している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			肢体不自由な利用者のための駐車場の確保が不十分である。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		
非 常 時 等 の 対 応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		事業所内で食事の提供がないため医師の指示書はないが、アレルギーの有無は保護者より知らせてもらっている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		自傷・他害がある場合には個別支援計画に記し、保護者と確認し承諾を得る。また、突発的に他害がみられ他児に危害がおよびことが予測された場合には、保護者に説明を行っている。	